



日本共産党
北茨城市委員会
浦加町登田1920-2
毎週日曜日発行
インターネットでも
ご覧いただけます
http://kth.geo.jp/jcp

ご相談は
お気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

問い合わせ殺到

後期高齢者医療制度

全国各地で怒りの声が広がっている後期高齢者医療制度が4月1日からスタートしました。北茨城市役所にも問い合わせの電話が多数寄せられています。市によると、電話の内容としては「いくら保険料がかかるのか」「なぜ年金から天引きされるのか」等々の質問と同時に「保険証がまだ届いていない」という声が特に多いとのことでした。

街かどで、病院で

ある市民は、こんな話を寄せてくれました。
「俺の保険の扶養に入っていた両親が脱退させられる



「磯高」と並び「磯原郷英」の名

ことになって、その通知に書いてあったからあわてて探したよ。封筒を開けてもいなかったよ。年寄りだけだったからわからないで捨てたかもしれない。大きな字で、重要・保険証在中」とでも書いてくれなければ、

また、市内のクリニクの待合いロビーで、高齢の女性2人の会話が耳に入ってきました。

「後期高齢者だってよ。なんだかやだねえ」
「もう年寄りには用がないってことなんだっぺ」
「こんでもセガレのご飯を炊いてやってんだけどねえ」
「あつち側は、帰ってきた人はいいねえんだから、よっぽどいいところなんだっぺ。早く行くしかないよ」

この国と社会を支えてくれた高齢者に、こんな情けない思いをさせる制度であることを改めて目の当たりにした場面でした。強行した自民党や公明党は、はたして納得してもらええる言葉を持っているのでしょうか。同制度について厚労省は、

新たに「長寿医療制度」と呼ぶようにと実施日の4月1日に各自自治体に指示しました。日本共産党市議団は「いくら名前を変えても、制度の中味が改善されなければ話にならない。ウバ捨て山も顔負けの発想であり、同制度は中止・撤回しかない。そのために署名や街頭からも大いに訴えていきます」と述べています。

県の医師会へ

前号で紹介が中途になりましたが、茨城県医師会は「後期高齢者医療制度」に対し、次のような撤回運動を展開するとしています。

- 1 後期高齢者医療制度に反対であり、撤回を求めて運動する。
- 2 署名活動
- 3 後期高齢者診療料算定について

いつそつ学校給食に地場産品を

3月議会では、この間の輸入ギョーザの問題もふまえ、鈴木やす子議員が改めて学校給食の食材について質問しました。

市によれば「輸入物、特に中国産のものは減らす努力をしている。納入時には、

この4月からの市内の小・中学校、幼稚園の校長・教頭、園長は下記の方々です。(敬称略)

校長・教頭

(学校名)	(校長)	(教頭)
中郷第一小学校	鈴木 安昭	篠原 義則
中郷第二小学校	根本 進	小澤 正道
石岡小学校	佐藤美枝子	舟生 太一
精華小学校	鈴木 芳雄	渡邊あけみ
明徳小学校	村田 俊美	高橋 博之
中妻小学校	大平 敏夫	鈴木 洋子
華南小学校	齋藤 壽男	矢代とみ子
関南小学校	乾 孝之	渡辺 啓一
大津小学校	田口不二天	川和 宏
平潟小学校	神永 寧子	折笠 修平
関本第一小学校	和田 健児	鈴木 栄子
富士ヶ丘小学校	鈴木 一成	和田 清典
中郷中学校	乙母 達夫	磯辺 文昭
磯原中学校	山形 一男	竹内 克直
華北中学校	岡野美智子	高野 雅英
常北中学校	滝 修	関 辰洋
関本中学校	鈴木 利昭	小関 敏郎
中郷幼稚園	小川 建士	石川 景一
華川幼稚園	大友 亘	

がネックになっています。

食育については、「学校内や近くの畑、水田で、地域の人の協力を得て、野菜や米づくりの体験を通し、植物の成長を観察し、収穫後は調理をして会食するなど生産と食との関係を学」んでおり、「地域の人材や土地の特色を活用し」ているとのこと。この方向で努力を重ねることを要望しました。

ただし、今年度、県が地産地消事業を縮小しているため、その復活を自治体としても強く求めてもらいたいものです。